

**Global (2013～ スーパーグローバルハイスクール事業)**

○研究開発の概要: 中山間地域に位置する本校でグローバル・リーダー育成に向けた教育を展開するために、本校の特徴(6カ年教育カリキュラムの編成、探究活動の実践、全寮制教育など)と、国際社会に散在する課題が山積みされた中山間地域の強みを活かして、国内外の関係機関と連携を図りながら課題研究を軸とした研究開発を行う。

○OSGH事業の成果: 社会実践を伴った課題研究活動の展開、探究的な学びを生み出す6カ年教育カリキュラムの開発、海外フィールドワークの実施 など

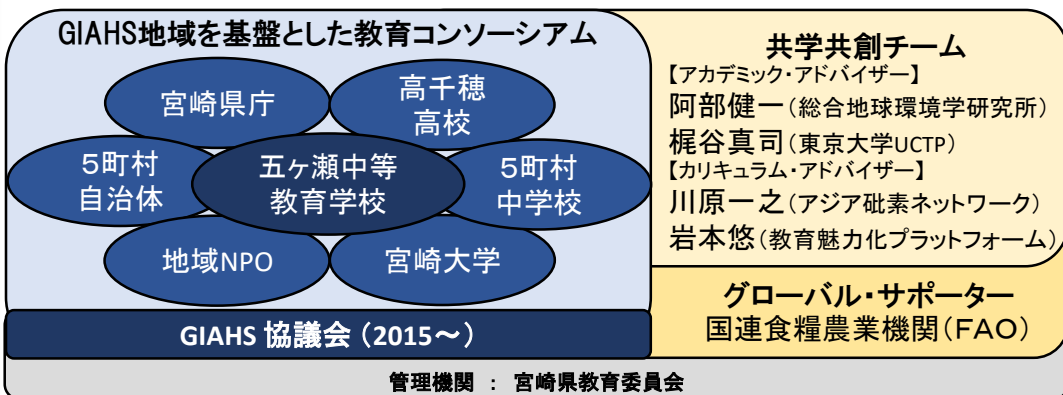
学びの普遍性(アカデミック)

**野性味あふれる地球市民(Global citizen)の育成**

(1) 関連づける力 Associating (2) 問う力 Questioning (3) 見る力 Observing (4) 試みる力 Experimenting (5) 繋がる力 Networking

風を読む(資質)

葉を広げる(連携) GIAHS Co-Learning Community の形成



世界農業遺産(GIAHS)  
高千穂郷・椎葉山地域

幹を育てる(探究) 地域との協働による探究活動の実践

土を耕す(支援) 地域協働学習実施支援員の養成

○みやざき教育魅力化コーディネーター養成コース  
(ウェブ会議システムを活用した社会人向け教育プログラムの提言)

**共に学ぶ【拡がり】**  
 ○6カ年の総合的な探究の時間  
(GIAHS・SDGsをテーマにした地域課題研究)  
 ○GIAHSシンポジウム  
(協働連携校との合同シンポジウム)  
 ○GIAHSスタディーツアー  
(国内外の留学生向けツアーの企画・運営)

**共に創る【深まり】**  
 ○Globalな視点×Localな実践  
(地域・海外人材との協働による探究活動)  
 ○海外人材との協働的な学び  
(留学生受入: アジアの架け橋プロジェクト)  
 ○海外フィールドワーク  
(国内外におけるGIAHS地域の魅力発信)

学びの真正性(リアリティー)

**Local (1986～フォレストピア構想, 2015～ 世界農業遺産認定)**

○フォレストピア構想: 県北5町村による「フォレストピア圏域」において、森林が持つ様々な機能と山村固有の伝統的な生活文化を活かし、人間性回復の森林づくりを目指すもの。五ヶ瀬町は「学びの森」に指定され、本校はその拠点校として位置づけられている。

○世界農業遺産 GIAHS: 社会や環境に適応しながら時代を通して継承されてきた独自性のある農林業と、それに密接に関わって育まれた人々の暮らしや文化を含む「山間地農林業複合システム」について、国連食糧農業機関によって認定されたもの。

Society 5.0を地域から分厚く支える人材の育成

ふりがな	みやざきけんきょういくいいんかい	ふりがな	みやざきけんりつごかせちゅうとうきょういくがっこう
管理機関名	宮崎県教育委員会	学校名	宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校

## 2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 実施体制の概要

### 1 管理機関・学校の概要

#### (1) 管理機関名、代表者名

管理機関名：宮崎県教育委員会

代表者名：日隈 俊郎

#### (2) 学校名、校長名、研究を実施する学科

学校名：宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校

学科：普通科 専門学科 総合学科

校長名：川越 浩

### 2 取組内容

本校は、教育目標に「眼（まなこ）を世界に開き未来を切り拓く，創造性豊かで主体的に生きる人間の育成を図る。」を掲げ，平成6年の開校以来，「総合的な学習の時間（フォレストピア学習）」において体験活動に基づく「知の総合化」を目指した課題研究を実践してきた。また，平成26年度からは，スーパーグローバルハイスクール（以下SGH）に指定され，中山間地域に顕在する社会課題をテーマにした地域課題研究を軸とした教育カリキュラム（グローバルフォレストピア学習）を実施した。この活動への取組により，当事者意識を持ち自ら社会に貢献・実践しようとする地域人材を育成するとともに，教科横断的な学びや海外フィールドワーク，英語ディスカッション等，先進的な地域課題研究を展開することができた。さらに，これらの活動を，宮崎大学をはじめ地域NPOやアジア砒素ネットワーク等，本校の教育理念や教育方針を理解していただいている様々な機関と連携しながら実践できたことは，意義深かった。

本事業においては，宮崎県北西部の5町村を中心に様々な活動に取り組んでいる世界農業遺産高千穂郷・椎葉山地域活性化協議会（GIAHS 活性化協議会）を活用して，五ヶ瀬中等教育学校が地域協働推進校となり，GIAHS 地域の5町村や高千穂高校をはじめとする5町村の公立中学校，地域NPO，宮崎大学等との協働による教育コンソーシアムを構築する。SGH 事業で培った先進的な地域課題研究の実績を踏まえ，コンソーシアム構成員と協働しながら実践・普及することによって，学びの真正性と普遍性を兼ね備えた「共学共創コミュニティ（GIAHS Co-Learning Community）」を形成し，Society5.0をGIAHS 地域から分厚く支える「野性味あふれる地球市民（Global citizen）」を育成する。

そのために，次の3点を軸とした研究開発に取り組む。

#### ① 地域との協働による「共学」の実現

GIAHS 地域で既に取り組まれている諸活動を体系化し，地域の魅力を共に学ぶ機会を設定したり協働型プロジェクトを立ち上げたりすることを通して「共学」を実現する。GIAHS 地域内唯一の県立高等学校である高千穂高校との地域課題研究の協働・実践をはじめ，GIAHS シンポジウム・中学生サミットの開催，GIAHS スタディーツアーの企画・運営等を実施する。

#### ② SGH 事業の成果に基づいた「共創」の実現

SGH 事業で培った地域課題研究をもとに，地域課題の解決等に向けた研究を中心とした教育課程をさらに発展させ，社会実践を伴った活動や普遍的な探究に繋ぐための哲学的思考ワーク等を新設した総合的な探究の時間（グローバルフォレストピア探究）を実施する。また，海外フィールドワークや海外人材の受入れ（アジアの架け橋プロジェクト），英語によるディスカッションなど，地域課題研究と関係性の高い先進的な外国語教育に取り組む。

#### ③ 本事業終了後を見据えた「自走的な仕組み」の実現

宮崎大学と連携して，将来的に地域協働学習支援員として活躍できる地域人材やその資質を有する教員を養成するための教育プログラムを開発する。さらに，学校の取組を宮崎県教育委員会及び高千穂郷・椎葉山地域活性化協議会の支援によってさらに強化できるようにする。

また、地域課題研究と関連した外国語活動の先進的な取組みを行う。グローバル探究やそれに関連する活動として、3学年で「グローバル探究研修(イギリスへの語学研修)」, 4学年で「GIAHSスタディーツアー」「海外フィールドワーク」, 5学年で「English Day」, 6学年で「英語によるディスカッション」を行う。これらの活動を行うことにより英語コミュニケーション能力の向上を図る。また、これらの活動に向け、必要な英語コミュニケーション能力を、英語科の授業をはじめ他教科の学習内容とも関連づけながら身に付けさせるような取組みを行う。

### 3 管理・運営方法

#### (1) 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校	校長 川越 浩
世界農業遺産高千穂郷・椎葉山地域活性化協議会 (GIAHS 協議会)	事務局長 安在 浩

#### (2) 将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有方法

宮崎県教育委員会の助言や GIAHS 協議会との協議のもと、地域の未来を切り拓く地域人材(野性味あふれる地球市民)を育成する。本校において検討会議を年3回(7月, 11月, 3月)開催し、地域ビジョン・求める人材等を共有する。また、本校において研究授業を年2回、課題研究発表会を年1回実施し、コンソーシアム構成員にも参加をしていただきながら、本校の取組についての共有を図る。

#### (3) コンソーシアムにおける研究開発体制

本校における探究的な学びの実現に向けて「教科代表者会」を組織し、探究的な学びの実現に向けたカリキュラムの改善を図る。総合的な探究の時間は「フォレストピア検討委員会」において実施に向けた検討を行う。また、検討委員会の実施や地域協働学習支援員との連絡調整を行う「探究主任」を置く。「研究調査部」の中に「研究主任」「探究主任」を置き、本事業の運営と評価を行う。「研究調査部」による定期的な確認や成果の検証・評価を「運営指導委員会」で報告し、専門的な立場から評価・指導をいただく。その内容を基に「研究調査部」及び「教科代表者会」において、計画・方法を改善していく。

連携機関との体制においては、GIAHS 協議会と五ヶ瀬中等教育学校が、定期的に連絡を取りながら、GIAHS 協議会が事業全体の企画や運営に携わる。グローバルフォレストピア探究や関連する諸活動等において、コンソーシアムの構成員が参加したり、サポートやコーディネートをしたりすることで、共に学ぶ体制を整える。

また、共学共創チームのメンバーからアドバイスやサポートをいただきながら、総合的な探究の時間のカリキュラム開発を進めるとともに、社会人向け教育プログラムを開発し、教育関係機関に提言する。

#### (4) カリキュラム開発等専門家(地域魅力化型・プロフェッショナル型)、海外交流アドバイザー(グローバル型)の指定及び配置計画

海外交流アドバイザーとして、地域NPOに所属する職員1名を指定する。海外フィールドワークにおけるプログラム(現地実習や現地の学生等との交流)の企画・運営に携わる。海外人材交流(英語ディスカッション等)の実施に関しては、留学生やALTとの連絡調整を行う。また、「みやざきグローバル人材育成協議会」と連携を図り、本校からの生徒の留学を支援する。

海外交流アドバイザーは高千穂町に常時勤務しながら、連絡等は主に電話やメール、テレビ会議等で行う。また、本校の海外交流検討委員会に参加する等、随時学校に訪問して職員や生徒との打合わせ等を行う。

#### (5) 地域協働学習実施支援員の指定及び配置計画

地域協働学習実施支援員として GIAHS 協議会・事務局に所属する職員 1 名を指定する。地域課題研究における 5 市町村自治体及び公立学校への連絡調整やファシリテーションを担う。また、GIAHS シンポジウム・中学生サミット、GIAHS スタディーツアーの企画・運営等に携わる。

地域課題学習実施支援員は、GIAHS 協議会・事務局に常時勤務しながら随時学校に訪問し、連絡調整は主に電話やメール、テレビ会議等で行う。

#### (6) 運営指導委員会及びコンソーシアム企画運営委員会の体制

管理機関が任命する運営指導委員として、学校教育に専門的知識を有する者、学識経験者、そして民間からの起用を予定しており、専門的見地から指導、助言をいただく。運営指導委員会は、年 2 回（7 月、12 月）開催する。

また、研究開発の計画立案、カリキュラムについての指導助言等を目的に、コンソーシアムを構成する各団体の代表者、地域協働学習実施支援員、海外交流アドバイザー及び県教育委員会を構成員として、コンソーシアム企画運営委員会を開催する。

#### (7) 研究成果報告・事業成果の検証に向けた計画

研究成果報告会を年 1 回実施する。また、毎年度作成する研究成果報告書や生徒の研究論文集は、関係機関や学校等に配付することで、取組の成果を広く普及させる。

また、事業成果の検証については、研究プログラムを評価するための組織として研究調査部（評価委員会を兼ねる）が、各種調査及び統計処理を分析、評価する。この評価をもとに運営指導委員会で評価・指導を受ける。

#### (8) 管理機関又はコンソーシアムによる主体的な取組・支援

##### <管理機関>

##### ① 「五ヶ瀬中等教育学校に係る検討会」の設置

宮崎県教育委員会の教育次長が座長となり、教育庁内の複数の課の担当者や学校長会長等をメンバーとした協議会を設置し、本校のさらなる魅力づくりの取組等について検討を行う。

##### ② 人的支援

- 指定校には、課題研究活動及び探究活動における指導力に優れた指導教諭及び教諭の計画的な配置に引き続き努め、指導体制の確立や O J T による人材育成を支援する。
- 高校教育課に地域協働推進校担当の指導主事を配置し、情報提供及びきめ細かな支援や指導・助言を行う。
- 指定校には、国際経験豊かな、研究経験のあるネイティブの外国語指導助手 (ALT) を引き続き配置し、融合教科および探究活動における指導助言を行う。
- 指定校主担当者が校内における指導に注力でき、また次期申請校へノウハウの継承等の支援ができるよう、加配による常勤または非常勤講師を指定校に配置するよう努める。
- 高校教育課及び県教育研修センターの指導主事でチームを構成し、本校の授業研究会や研究発表会において本校職員や生徒に、直接指導、助言を行う。

##### ③ 情報支援

- SSH・SGH 指定校と連絡協議会を開催し、探究的な学びを深めるための研修の機会を設ける。また、高等学校教諭等を対象にした指導力向上研修会を実施し、探究的な学びを実践できる教諭を増やすような取組を行う。
- 課題研究発表会を開催し、地域課題研究の成果を発表するとともに、生徒及び教員が様々な視点から指導・助言を得る機会を設ける。
- 指定校と小・中学校の円滑な連携のため、各教育事務所および市町村教育委員会と調整を図り、生徒の小・中学校への派遣等の推進を支援する。

##### ④ 物的支援

- 指定校等が課題研究発表会に参加するために必要なバス借上等の費用として、借損料を一部支援する。

- 海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員が、地域協働推進校への指導助言を行うために必要な謝金及び旅費を支援する。

#### ＜コンソーシアム＞

- ① GIAHS 活性化推進協議会や地域 NPO 等が行う活動への参加  
前記している GIAHS スタディーツアーをはじめ、宮崎大学 GIAHS キャンパスツアー、GIAHS マイプロ合宿、GIAHS・ユネスコエコパーク合同シンポジウム、世界農業遺産中学生サミット等は、GIAHS 活性化推進協議会や地域 NPO 等コンソーシアムの構成メンバーが、主体的に取り組む活動である。それらの活動の企画・運営を生徒が行ったり、積極的に参加したりすることで、本地域の理解をさらに深め、自分の地域課題研究に役立てることができる機会とする。
- ② SNS の活用と広報誌への記事の掲載  
構成メンバーがすでに運用しているブログやフェイスブック等の SNS に、生徒が行った活動等を紹介したり、作成したコンテンツを配信していただいたりする。また、構成メンバーが発行している広報誌に、生徒が書いた記事を掲載していただく。
- ③ 近隣の学校や地域の行事等への参加  
高千穂高校や五ヶ瀬中学校など近隣の公立学校の行事等に、本校生徒が参加をして一緒に活動をすることで、連携を深める。また、地域の諸行事にも本校生徒がボランティア等として参加をすることで、地域課題研究を行う時の地域とのつながりをつくる。

#### (9) 事業終了後の継続的な取組の実施に向けた計画

地域課題研究のテーマの中に 5 町村の中学校及び高千穂高校との協働型プロジェクトを立ち上げることによって、GIAHS 地域の中高生による共学共創を実現する。また、GIAHS 地域の生徒による自主活動団体 (NPO) を設立し、教育課程外においても主体的に地域と協働しながら地域課題解決に向けた活動に取り組むことができるようにする。

宮崎県教育庁の事業である「県立高校を核としたまち・ひと・しごと創生推進事業」のコミュニティスクールの取組と連動させて、継続して取り組む。その際、地域協働学習実施支援員は「魅力化支援エリアスタッフ」として配置していただく。

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要

指定期間	ふりがな	みやざきけんりつごかせちゅうとうきょういっくがっこう						②所在都道府県	宮崎県
2019～2021	①学校名	宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校							
③対象 学科名	④対象とする生徒数							⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	全国初の公立中等教育学校として、宮崎県全域より1クラス40名を募集し、1学年から6年生まで、計228名が在籍している。	
全日制 普通科	40	39	36	36	38	39	228		
⑥研究開発 構想名	学校を核とした「共学共創コミュニティ (GIAHS Co-Learning Community)」の形成								
⑦研究開発 の概要	<p>GIAHS 地域ならではの価値を創造し、地域の未来を切り拓く「野性味あふれる地球市民」を育成するため、次の3点を軸とした研究開発に取り組む。</p> <p>(1) 地域との協働による「共学」の実現（地域課題研究の実践）</p> <p>(2) SGH 事業の成果に基づいた「共創」の実現（探究カリキュラムの開発）</p> <p>(3) 本事業終了後を見据えた「自走的な仕組み」の実現（地域人材の育成）</p>								
⑧ 研究開発 の内容等	⑧ -1 全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>世界農業遺産・認定地域 (GIAHS 地域) においてコンソーシアムを構築し、スーパーグローバルハイスクール事業で培った地域課題研究をコンソーシアム構成員と協働しながら実践・普及することによって、学びの真正性と普遍性を兼ね備えた「共学共創コミュニティ (GIAHS Co-Learning Community)」を形成し、Society 5.0 を GIAHS 地域から分厚く支える「野性味あふれる地球市民 (Global citizen)」を育成する。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>宮崎県は、21 世紀を拓くリーディング・プロジェクトの1つとして「フォレストピア宮崎構想」を昭和 62 年に発表し、その中で本校は「学びの森」の中核として平成 6 年に全国初の公立中高一貫教育校として創設された。また、社会や環境に適応しながら独自性のある農林業とそれに密接に関わって育まれた人々の暮らしや文化を含む「山間地農林業複合システム」として、同地域は平成 27 年に国際連合食糧農業機関 (FAO) によって世界農業遺産 (GIAHS) として認定された。</p> <p>一方で、本校は平成 26 年に文部科学省のスーパーグローバルハイスクールに指定され、5 年間の事業に取り組んできた。中山間地域 (ローカル) に顕在化しているグローバルな社会課題に関心を持ち、その解決のモデルを考察・実践することができる「野性味あふれるグローバル・リーダー」の育成を目指して、地域課題研究を軸とした教育カリキュラム (総合的な学習の時間) を展開し、SGH 甲子園 2018 最優秀賞をはじめ、公益性の高いコンテストにおいても、高い評価を得ることが出来た。</p> <p>このように、本校が位置する五ヶ瀬町を含む 5 町村は、20 年以上に渡ってその価値や魅力が評価され続けてきた地域であるとともに、その拠点として本校が構築してきた探究的な学びの実績があるといえる。</p> <p>そこで、学校を核とした共学共創コミュニティ (GIAHS Co-Learning Community) を形成し、これまでの SGH 事業で構築した探究的な学びを地域と協働しながら実践・普及することによって、Society 5.0 を GIAHS 地域から分厚く支える野性味あふれる地球市民 (Global citizen) を育成できるだろう。</p>							

<p style="text-align: center;">⑧ -2 具 体 的 内 容</p>	<p>(1) <b>地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画</b></p> <p><u>(ア) 総合的な探究の時間（グローバルフォレストピア探究）の実施</u> SGH 事業を5年間実施し、生徒の社会課題に対する当事者意識を高めることができた。今後は、グローバルな視野のもとで、地域の課題解決へ向けた学びに深化させる必要があると考え、「ローカルな問いを深め、普遍的な問いを探究する」ための総合的な探究の時間（グローバルフォレストピア探究）を実施する。これまで培った地域との協働による探究的な学習内容を6カ年に適切に位置付けるとともに、各教科・科目と相互に関連させるため、教科等横断的な学習を計画する。</p> <p><u>(イ) 総合的な探究の時間における形成的アセスメントの実施</u> グローバルフォレストピア探究においては、身につけさせたい5つの力（関連づける力、問う力、見る力、試みる力、繋がる力）の獲得を目指し、生徒及び教師が自己評価・客観的評価を行う。評価方法として、ICEモデル(Young and Wilson, 1995)をもとに、独自の評価基準を設定する。このような形成的アセスメントの構築を通して、学校全体の授業改善や教師、生徒の学びに対する意識改革を促すことを目的とする。</p> <p>(2) <b>カリキュラム・マネジメントの推進体制</b></p> <p><u>(ア) フォレストピア検討委員会</u> 各学年コース責任者、研究調査部、前期・後期教頭、地域協働学習実施支援員で構成し、外部有識者からの助言・指導を活かしながら、6カ年を見通したグローバルフォレストピア探究の実施内容の検討やカリキュラム改善を行う。</p> <p><u>(イ) 教科代表者会</u> 各教科の代表者、前期・後期教頭、教務主任、探究主任、進路指導部長で構成し、グローバルフォレストピア探究と教科等横断的な学習の計画や方向性を確認するとともに、探究的な学びに対するアセスメントの役割を担う。</p> <p><u>(ウ) 海外交流検討委員会</u> 研究調査部、前期・後期教頭、事務長、海外交流アドバイザー、教務主任、前期・後期主任、生徒指導部長、寮教育部主任、留学支援担当教職員で構成し、本校生徒の海外フィールドワークや海外留学・進学への支援、海外からの留学生受け入れ（アジアのかけ橋プロジェクト等）の支援に関する運営・検討を行う。</p> <p>(3) <b>必要となる教育課程の特例等</b> 特になし</p>
<p style="text-align: center;">⑨その他 特記事項</p>	<p>(1) <b>コンソーシアム構成員との協働による企画・運営</b> SGH 事業で取り組んできた成果をもとに、コンソーシアム構成員（GIAHS 協議会、地域NPO、協働推進連携校）との協働による企画・運営を行う。 [主な活動] GIAHS スタディツアーへの参画、GIAHS シンポジウムの開催</p> <p>(2) <b>先進的な外国語教育の実践</b> 3学年の生徒全員を対象にしたグローバル探究研修（イギリス）や4学年の選抜生徒を対象にした海外フィールドワーク（GIAHS 認定地域）を実施し、地域課題研究と関連付けながら、コミュニケーション能力を重視した外国語教育を実践する。</p> <p>(3) <b>社会人向け教育プログラムの開発と提言</b> 将来的に地域協働学習実施支援員として活躍できる地域人材やその資質を有する教職員を養成するための社会人向け教育プログラム（みやざき教育魅力化コーディネーター養成コース）の開発に取り組み、本事業終了後の自走的な仕組みづくりを提言する。</p>